

第3回石狩市手話基本条例推進懇話会における主な発言要旨

1 手話やろう者の理解を広めるために

- ・ 石狩市は、手話条例がスタートして4年目になる。感じていることは、子どもたちにとって、最初は聞こえないということについては自分とは関係ないというような感じでしたが、聞こえない人たちが講師として手話出前授業をする中で、2年3年と経過した今、ろう者の事を理解してくれ、身近な存在として気が付いてくれる事が深まっているような感じがしています。気が付きがあれば次に何かを伝えようと、身振りや手話に努力するというような対応方法もしてくれると思います。手話の理解についてはすごく早く進んでいると思う。
- ・ 今年から初めて手話出前講座の講師をしています。出前講座で学校に行った時に子ども達の様子にびっくりしました。なぜかと言うと、私のことを自分の孫のおばあちゃんだということが分かっている、手話で挨拶してくれる様子もあります、だからすごく嬉しく感じております。家に遊びに来たときも、手話を使って挨拶をしてくれます。みんな私のことを知っていて手話で挨拶をしてくれるのでとても嬉しいです。手話の指導についても楽しみながら行っております。今後も続けていき、もっと手話について広めていきたいと思う。
- ・ 出前講座に行っていて、幼稚園からろうあ者に接していると、触れ合いがすごく何か深くなるような感じがあるのですよね。中学生から接すると、接し方がちょっと引っ込み思案みたいな、何と言うかろうあ者をちょっと違う感じを受けているので、小さい本当に幼稚園とか保育園とかに行くと歌でも構わないからろうあ者と触れ合うのを増やしたいなという風には感じている。
- ・ 通研(北海道手話通訳問題研究会道央支部石狩班)で手話カフェやっているのですが、その手話カフェに来る人が前に手話に触れたことがある人が多い。石狩に手話条例が出来たとうことで手話に新たに触れたいと思う人が少ない。そのような見方でいくと、手話条例は広まっていないのかなと感じる。
- ・ 今、出前講座で小学校、中学校に行っている効果というのは、10年後の石狩の状況を考えたときに手話が分かっている市民が増えているということだと思っております。子どもたちに手話についてとか、ろうあ者について教えるのは将来のためという風に感じます。今大人に対して、町内会とかに出向いて行って説明するのが効果があるのかなという風に思いました。前回の会議の時に見せてもらった意思を伝えるカードとかを使うというのは、病院とかスーパーとかで使っている様子を見て、「ああ、そう、ろうあ者はそういう方法があるのだ」というのを見て、知るというきっかけにな

るのかなと思いました。だからそういうのを使うのを見るというのもすごく普及の1つだと思いました。

- ・ 小学校中学校、翔陽高校などは、ある程度手話のことは分かったのではないかと思います。ただ、普段の通訳業務、通訳の仕事で出ている時に感じることは、特に会社関係がまだまだという感じします。会社の面接で聞こえないということで、面接を受ける前から断られる、企業関係の通訳の際もろう者に対して「声出してみろ」とか、理解が無いっていう状況が実際に感じているのですよね。そういう大人に対して、会社に対して、社会全体に対しての普及の仕方をどうしたら良いのかというのを考えていくべきではないか。
- ・ 手話条例の理解を広めるためには、新聞・テレビ等マスコミの力を借りるのも必要ではないか。

2 手話に関するまちの環境づくりやPRについて

- ・ 市役所の中でのPR「手話ができるまち」というような物があれば、すごいなと思いますが、まだ無い。石狩市でもお金掛けず、安くても構わないので何か、市外から来た人に見て訴えられるような、見て分かるような仕組みがあれば良いのではないか。
- ・ 市役所のテレビにアイドラゴン(手話や字幕付きの番組が見られる受信器具)を設置して、日常の中で、市民が手話に触れる機会をつくってはどうか。
- ・ 石狩市は「石狩手話教室」というPR動画を作成しているので、繰り返し映したらどうだろうか。
- ・ 旗やペナントを作成して、まちの中で「手話のまち」であることをPRしてはどうだろうか。
- ・ 災害時に利用できるバンダナやヘルメットを市で用意しているか。
- ・ 市役所に来た時に、ろうあ者が来たときに集まれることができ、動画が見られるような場所、サロンのような物を作ったら良いのではないか。
- ・ ヘルプカードの配付について